

平成23年度 学力向上実践研究のまとめ

研究課題

英語，国語を中心に，基礎的，基本的な学習の定着を図るための指導方法や教材の研究をする。また，国際交流を進める等，総合的な学習の時間等を利用しながら，コミュニケーション能力や教科横断的な能力の育成を図り，学習の大切さや楽しさを知ることが出来るような指導方法や活動を工夫する。

1. 重点課題への取組状況

- (1) 基礎学力の定着を図る・・・課題テストの実施と新聞コラムの活用
 - ア 全学年で毎週週末課題（英・国）を課し，週末課題の範囲で課題テストを行った。
内容・・・英語－語彙，国語－漢字，語句，文学史，ことわざ等
 - イ 新聞のコラムを音読，視写，要約させた。

- (2) 家庭学習の習慣をつけさせる・・・学習計画表の作成
 - ア 学習計画表を考査前に配布し，計画を立てさせ，学習時間を書かせて集計した。
 - イ 担任がチェックをし，学習状況についてアドバイスをした。

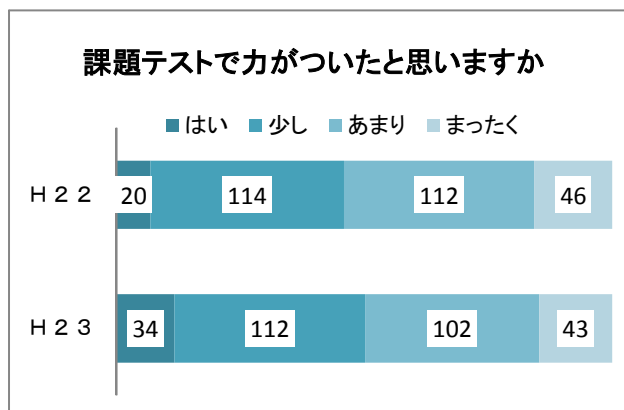
- (3) 自主的な読書習慣を育成する・・・「朝の読書」の充実と「書くこと」の奨励
 - ア 読破冊数記録や読書レポートを書かせ，読書ファイルに綴じさせた。
 - イ 俳句・短歌等の創作を奨励し，コンクールや新聞に投稿させた。

- (4) 総合的な学習の時間の活用を図る
 - ア 国際理解に関する講演会や海外修学旅行の報告会を行った。
 - イ 職業分野別進路説明会や，学問分野別進路説明会を行った。

2. 3年間の成果及び今後の課題

- (1) 基礎学力の定着
 - ア 課題テストの実施
アンケート（2,3年生全員対象）では，力がついたという生徒がやや増えたが，課題テスト平均点上位者（80%以上得点）と全国規模の学力テスト得点上昇者（2年生で全国平均との差が1年時より上昇）との相関は特に見られなかった。なお，得点目標達成教科は1年国語と3年国語であった。

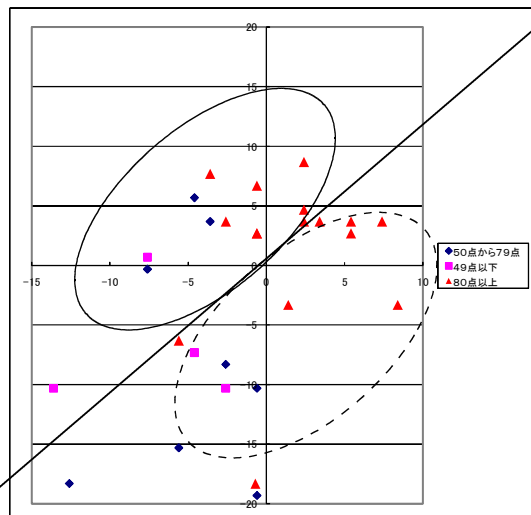
学力テスト現代文の得点(英語も同様であった)



(数字は人数)

課題

テストの内容をさらに検討すべきである。たとえば、国語の漢字であれば他教科と連動したものなど。



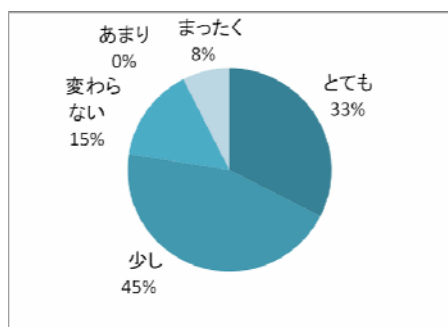
▲が課題テスト上位者
○内が点数上昇者 ○内が点数下降者

(横軸が1年時全国平均との差 縦軸が2年時全国平均との差)

イ 新聞コラムの活用

アンケート(2年生1クラス対象)では力がついたり、社会の動きに対する関心が高まったという生徒が8割程度いた。また、コラム自主学習実施者(視写、要約等)と全国規模の学力テスト現代文得点上昇者(2年生で全国平均との差が1年時より上昇)との相関が見られた。

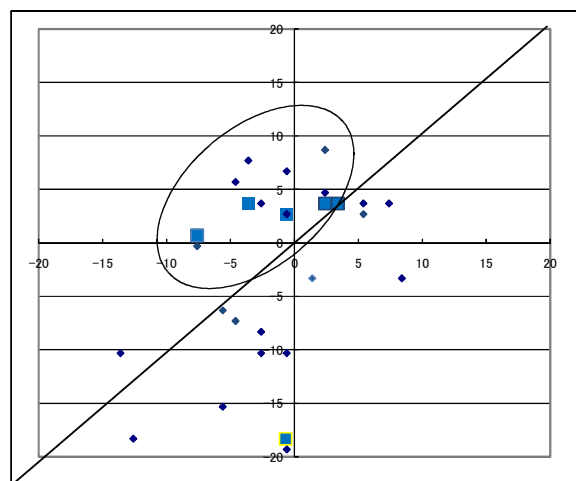
毎日コラムを読むことで何か力がついたり役に立ったりしていますか？



課題

コラムを授業で活用したり、自主学習で利用したりすることは、学習意欲や学力の向上につながると考えられる。自主学習実施者はまだまだ一部のものであるので、多くの生徒が取り組むよう督励したい。

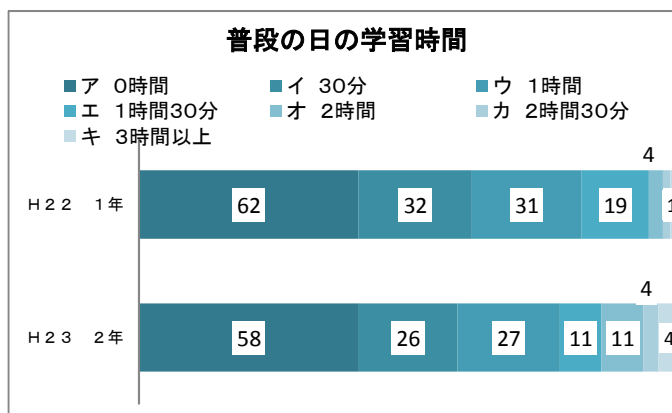
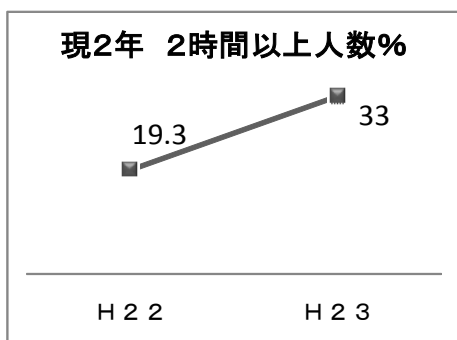
学力テスト現代文の得点との相関



■がコラム自主学習実施者
点数が上昇している

(2) 家庭学習の習慣・・・学習時間調査の結果から（調査前1週間）

現2，3年生ともに学年が上がるにしたがって学習時間が増えている。また，普段の日の学習時間も，やや増加する傾向にある。なお，平均2時間以上の人数割合は各学年とも目標を上回った。ゼロ時間の人数割合は1年生のみ目標を達成した。



(数字は人数)

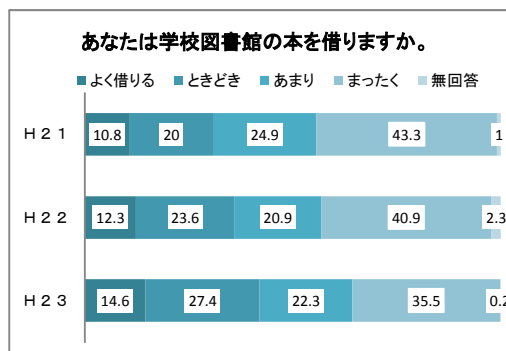
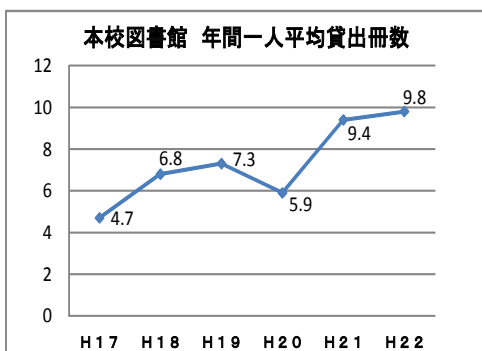
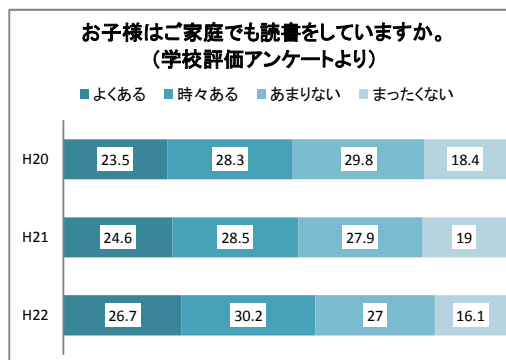
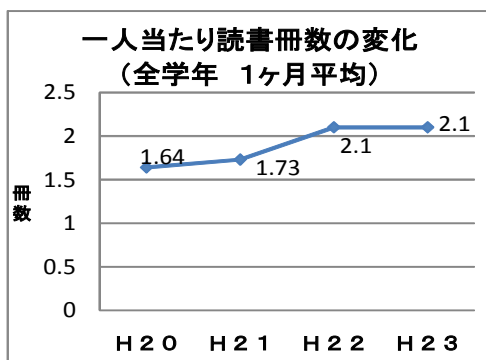
課題

3つの学年全体の2時間以上人数%は34.1 → 34.8 → 30.6と今年度に下降している。これは3年生の2学期が落ち込むことが原因であった。今後は3年生の進路決定後の学習へ動機付けを考えたい。

(3) 自主的な読書習慣の育成

ア 朝の読書，読書レポートの作成等

年度を重ねるにしたがって，読書冊数や，図書館での貸し出しが増えている。また，家庭でも読書をする傾向が見られる。また，(1)と同様に現代文の学力テストとの相関を見たところ，文学に偏らずバランスよく読む生徒は点数が上昇している。



(上下グラフとも数字は%)

なお、一人当たりの読書冊数が月2冊以上のクラスの数を昨年度よりも1以上増加させるという目標は達成した。(昨年度4→今年度6)

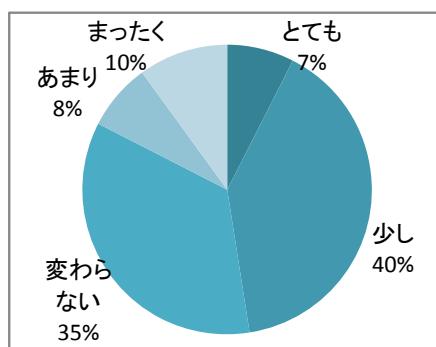
課題

これまでは、冊数に重点を置いてきたが、今後は幅広い読書という視点から、いろいろなジャンルの本を読むよう督励したい。また、文学に偏る生徒には、コラムの自主学習を勧めたい。コラムにはさまざまなジャンルの内容が盛り込まれているからだ。

イ 俳句・短歌等の創作

アンケート(2年生1クラス対象)では、言葉や季節に対する意識の変化がみられるのは半数であった。ただ、新聞に掲載されると生徒は非常に嬉しそうであった。また、俳句や短歌を創作すると、心が落ち着くという生徒もいた。

俳句や短歌を鑑賞したり作ったりすることで、言葉や季節に対する意識は高まりましたか？



徳島新聞「ヤングカルチャー」俳句、短歌募集入賞数

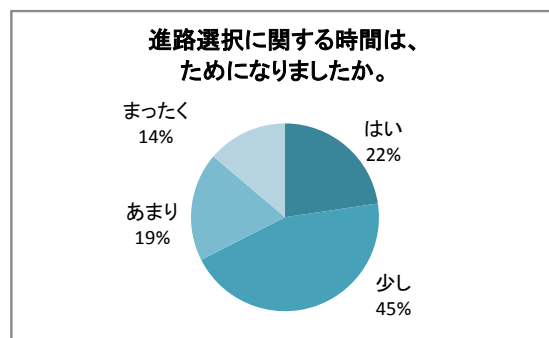
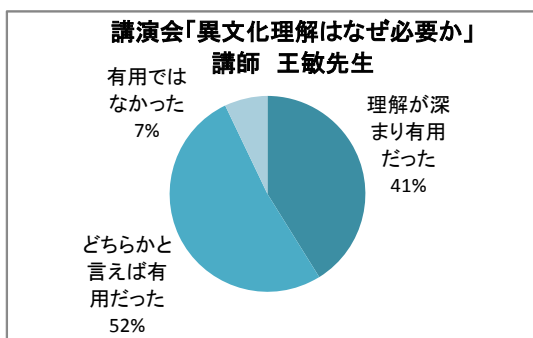
	平成22年度	平成23年度 (~12月)
金賞	2	4
銀賞	3	1
銅賞	3	3
掲載	67	27

課題

毎回平均50作品程度応募している。この数をさらに多くしたい。また、句会を授業、総合的な学習の時間の中に位置づけて計画的に行いたい。

(4) 総合的な学習の時間の活用を図る

国際理解に関する講演会や姉妹校との交流行事等では興味関心を示した生徒が8割以上いた。昨年2月に起きたニュージーランド地震の際にも、生徒会がいちはやく募金を行い、義援金を送った。また、進路講演会やガイダンス等の進路選択に関する時間がためになったという生徒は、8割近くいた。本校では学校全体としては外部に出向いての職業体験活動を行っていないが、希望者が参加する職業体験、たとえば、看護、理学・作業療法、介護等の体験に参加する生徒が年々増えている。



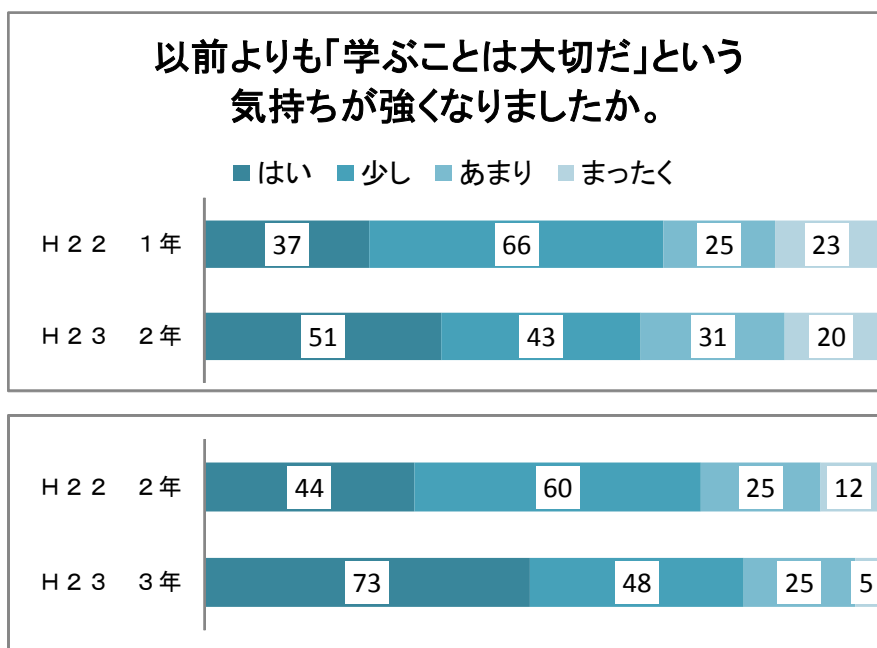
課題

海外の姉妹校（5校）との交流をさらに図りたい。お互いの行き来が可能であれば実行し、それが無理であればメールや手紙のやりとりを定期的に行う等が考えられる。また、キャリア教育をさらに総合的な学習の時間に計画的に組み入れたい。

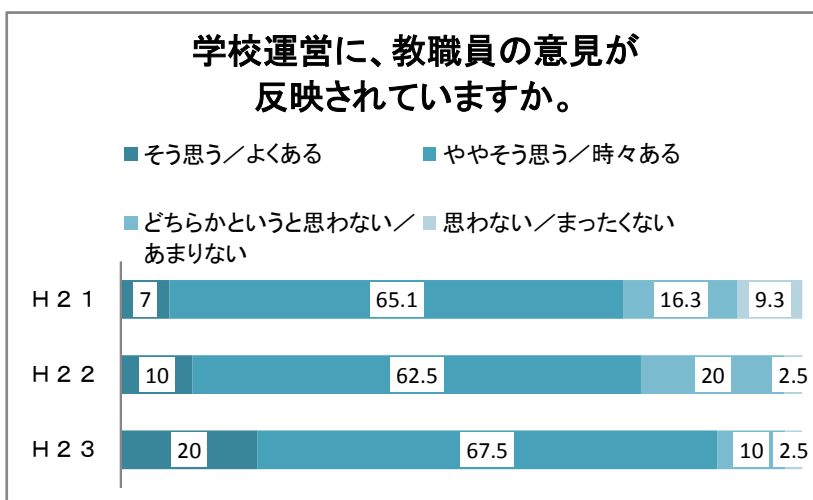
○終わりに

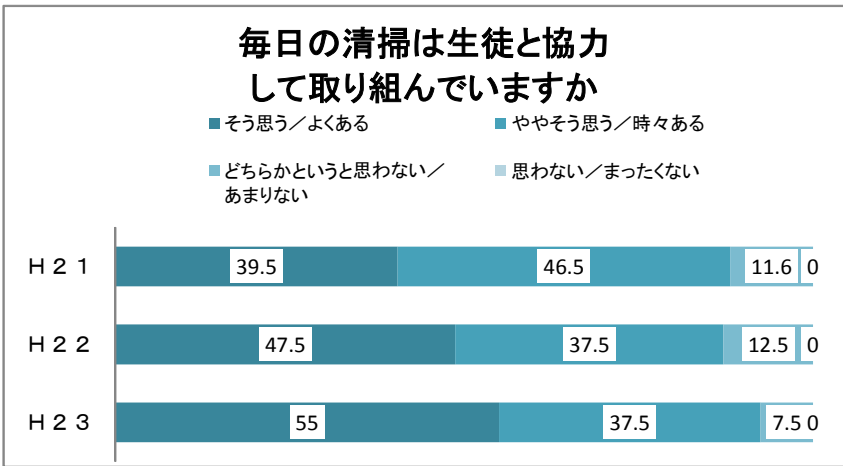
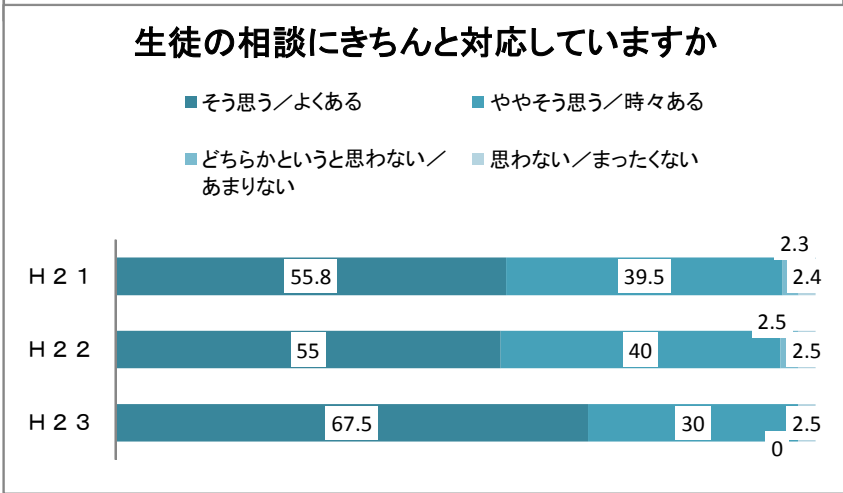
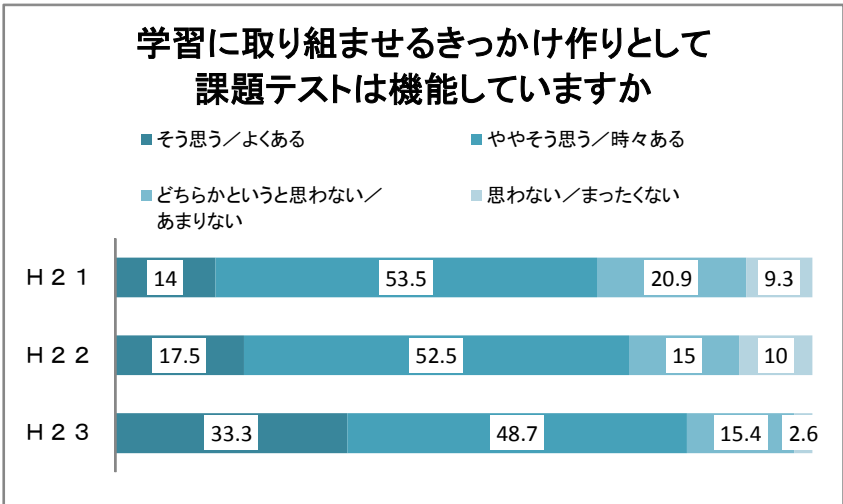
以上の4項目を踏まえて、当初の目的である「学ぶことの大切さ」を知ることについてのアンケート結果は以下のとおりである。（数字は人数）

現3年生は進路決定の時期ということもあってか、「学ぶことは大切だ」という気持ちが昨年より強くなった生徒が増えている。現2年生も昨年より強くなった生徒はいるものの、そうでない生徒も増えており、二極化している。今後の指導に工夫が必要だ。



最後に、教職員の変化であるが、毎年行われている学校評価アンケートの教職員の集計を紹介する。（数字は%）





項目は23あり、学校運営全般から進路指導、生徒指導、特別活動、清掃等々学校の日々の活動についてさまざまである。この研究指定を受けた平成21年度から平成23年度までを比較すると、ほとんどの項目で、肯定的な意見が増加している。

これらは、生徒一人ひとりに関わろう、学校をよくしようという意識のあらわれとも言える。教職員個人個人の努力もさることながら、今回の研究指定のおかげとも言えよう。

今後は課題をひとつひとつ改善しながら、よりいっそう学力向上、学校の活性化を図りたい。